

平成25年度 政務調査費 先進都市調査報告書

会派名	市政創造
議員名	我妻静夫・岡田健一・山川明・山中正尚・古澤孝市・徳中嗣史・早川昇三
調査実施年月日	平成25年5月21日(火)
調査先 自治体名等	長崎県 長崎市 都市計画部 長崎駅周整備室 企画係
調査項目	フリーゲージ・トレインについて
調査目的	・フリーゲージ・トレインの市内への波及効果 ・駅周辺整備の状況 ・まちづくりへの組み入れ
報告内容 実施したこと	1 視察先(市町村)の概要 人口：436,160人(H25.4.1現在) 行政面積：406.46 km ² 2 視察内容 フリーゲージ・トレインについて フリーゲージ・トレインの市内への波及効果について 駅周辺整備の状況について まちづくりへの組み入れについて
感想(まとめ) 本市へ生かせること等	1.フリーゲージ・トレイン フリーゲージ・トレインの市内への波及効果について フリーゲージ・トレインは、新幹線(標準軌道)と在来線(狭軌道)のレールを軌間変換を行い双方の軌道を走行できる車両で、現在開発と走行耐久試験を行っています。長崎市では、九州新幹線西九州ルートが開通することにより、博多～長崎間の所要時間が28分短縮の1時間20分、広島までは2時間30分、大阪までは4時間となることから1日の利用者数を福岡県からは1.3倍の14,900人と予測しております。また、中国5県、関西地区からの利用者数は、それぞれ1.2倍の1,700人(中国5県)と2,200人(関西)と予測しております。北海道新幹線は、仮称新函館駅の開通が平成27年末に予定されており、北海道経済連合会では、鉄道交流人口を開業前138万人/年を2.5倍の347万人と見込んでおります。今後新幹線の札幌延伸を踏まえ、フリーゲージ・トレインの運用を参考にして本市の経済効果に取り組みたいと思います。 駅周辺整備の状況について 長崎駅周辺整備は、九州新幹線西九州ルート建設計画、JR長崎本線連続立体交差事業及び長崎駅周辺土地地区画整理事業が相互に関連しながら計画されています。駅周辺の現状は、西側に広大な鉄道用地あり有効活用されていない。鉄道により東西市街地が分断され、交通混雑が発生しているなど課題が山積しています。長崎市では、鉄道用地を活用して東西市街地の一体化、踏切除却による交通混雑の解消、高速交通ネットワークの整備などを目的に事業に取り組んでいます。本市では、都市計画マスタープランを策定し、まちづくりに取り組んでいます。長崎市のような整備計画を参考にして行きたいと考えます。 まちづくりへの組み入れについて 長崎市では、駅周辺整備に合わせてまちづくりへの組み入れを行っています。まちづくりについては、「長崎駅周辺まちづくりガイドライン」を策定して新たなまちの形成に向けた取り組み計画しています。ガイドラインのまちづくりの考え方には、「地区別土地利用」、「建物等の整備」、「市内の各拠点や周辺地区との連携」の3つの項目から成り、土地利用では、にぎわい空間を基軸とした多様な利用や、建物の整備では、デザインや高さなどを定め、長崎市の特徴的な眺望や重要な歴史資産などへの配慮をしています。 今後の本市のまちづくりについて、長崎市の様な取り組みを参考にして行きたいと思います。